

第7回 農村環境の保全に関する研究会 議事要旨

開催日：平成21年2月23日(月)

開催場所：(社)農村環境整備センター会議室

(議事要旨)

well-Beingは、構成要素と規定要因の2つのものに関係し、構成要素に影響を与える規定要因が潜在力。規定要因が構成要素になるとき、同時に国民が農業・農村の潜在力を楽しむ力を付けていなければ持続的なものとはならない。

農業・農村が持っている潜在力のなかで、何を最も大事な潜在能力と考えるのか差別化が必要。

農村における共同体的な取組をどのように考え、合意形成に至らしめるかの仕組みをいわなければ日本的な特徴が出てこないのではないか。

多面的機能発揮の取組が継続されることにより新しい機能が発揮され、非農業者の理解も進む。問題は、どうやって持続的なシステムをつくるかが大事。

これまで潜在力として言及されてきたのは、国土保全機能。しかし、この5年間で地球環境問題と農業との関わりの議論が活発化し、生物多様性の概念が国民に理解され始めてきている。

潜在力を一般の人々に説明するには、実際に取り組んでいる事例を発現効果も含め丁寧に紹介する以外にないのではないか。

農村の潜在力とは、基本的に市場では大部分発揮されないもの。もっと大事なものがあるということを説得的にいうことが求められているのではないか。

農村が持っている環境教育的な機能についても、今後積極的に打ち出していく必要。